

平成 29 年度 第 5 回ひきこもり支援等検討委員会会議録（案）

■日時：平成 30 年 1 月 30 日（水）10：00～11：30

■場所：総社市総合福祉センター2 階 教養研修室

■参加者

【委員】安本 美喜男（総社市民生委員児童委員協議会）・山本 繁（総社市福祉委員協議会）・安部 久仁子（総社市自立支援協議会）・西田 和弘（総社市生活困窮支援センター協議会）・平野 悦子（総社市保健福祉部）・内田 和弘（総社市保健福祉部健康医療課）・新谷 秀樹（総社市保健福祉部福祉課）・林 直方（総社市保健福祉部長寿介護課）・北川 和美（総社市教育委員会学校教育課）・横田 優子（総社市教育委員会生涯学習課）・田頭 羊子（岡山県備中保健所）・直島 克樹（川崎医療福祉大学医療福祉学科）

※欠席（中山 遼・藤井 基弘・大崎 雅也・佐野 裕二・周防 美智子）

【オブザーバー】吉田 光臣（岡山県社会福祉協議会地域福祉部）・川上 富雄（駒澤大学文学部社会学科）・村山 俊（総社市教育委員会学校教育課）

【事務局】近藤 美保子（総社市保健福祉部福祉課）・中井 俊雄・佐々木 恵・高瀬 智早（総社市社会福祉協議会ひきこもり支援センター）（敬称略）

■開会：西田委員長あいさつ

今年は、拠点の居場所など予定しており、一歩、二歩前に進む年になると思う。

■報告事項

●第 2 回全国屈指福祉会議について

（平野副委員長）2 ページから参照。

1 月 26 日に開催された。ひきこもり支援部会からの報告ということで、現在の実績を報告し、平成 30 年度に向けての重点施策として、「ひきこもり家族会の組織化」、「ひきこもりサミットの開催」を予定している。「居場所の設置・運営」を拡充していくと報告している。

●ひきこもり支援センター「ワンタッチ」の実績について

（事務局）8 ページから参照

- ・ 12 月末付けで延相談件数 1,223 件（訪問 352 件、来所 372 件、電話 460 件、e-mail36 件）
- ・ 実相談者数は、12 月末付で 91 名となっているが、本日付けでは 95 名となっている。本人と接触できている相談は 37 ケース、家族のみの相談は、34 ケース、その他情報提供等 24 ケースになっている。
- ・ 第 4 回ひきこもり支援等検討委員会以降の動きでは、週 5 日 6 時間の短期就労に

就かれた方、15ページのNO.55のケース。年末年始に仕事就き、その後は復学やバイトの支援を行っていく予定。

- センターの動きとしては、移動型居場所ということで、11/30にクリスマス会の準備やハートフルそうじゃのパネル作り、12/15にクリスマス会を当事者の方とひきこもりサポーターと支援者で行っている。別件では、開設予定の居場所への机搬入を当事者と一緒に行った。
- 9ページのNO.14のケースは、福祉施設でボランティアをしているが、療育手帳の手続きを行い、就労の選択肢を広げている段階である。
- 気になるケースとしては、神戸市在住の家族からの相談で、インターネットで情報を見つけ、ひきこもりに理解がある総社市に移住を検討していると来所相談された。今現在の神戸のひきこもり支援の情報提供と総社のひきこもり支援について情報提供し、移住については家族でしっかり検討してくださいと伝えている。

●ひきこもりサポーター活動実績について

(事務局) 19ページ参照。

- 1/18に、第3回フォローアップ研修を開催。ひきこもり支援員の二人で講義を行ない、「受け入れる、視点を変える、良いところを探す」というテーマで、グループワークやロールプレイを行なった。
- 12/21と1/18にひきこもりサポーター定例ミーティングを行なっている。サポーターから次年度から「ひきこもりサポーター」ではなく「なないろサポーター」という名称で活動するのはどうかと提案いただいている。
- その他の活動として、11/30にハートフルそうじゃ・クリスマス会の準備、12/15にクリスマス会を行なっている。
- 第4回までひきこもりサポーター養成講座が終了している。50名の方に参加申込みをいただいております、参加者は第4回が29名であったが、同じNPO法人から約10名申し込まれており、当日NPOの行事と重なったことが理由であった。
- 第3回は、岡大の塚本先生に「多角的な視点からひきこもりを考えよう」というテーマでご講義いただき、グループワークを「あなたにとって理想の家族とは」、「講義を聞いての感想」で行なった。
- 第4回は、あかねの中山代表に「居場所支援について考えよう」というテーマでご講義いただき、グループワークではあかねの利用者を匿名で出していただき、どんな関わりが必要か、どんな居場所が良いと思うかという内容で検討した。

●ひきこもり家族会の設置について

(事務局) 22ページ参照。

当日は、14時から16時までを予定していたが、16時を過ぎてから堰を切ったように話が盛り上がり、17時まで延長した。参加者は8名。実際に不登校の家族会をしている方から、設立のきっかけや家族会の効果、現在の取り組みを話していただいた。後半の交流会では、「本人と関わる中で焦りはなかったのか」という質問や、「本人は友達づくりできる場を求めている」という話や「家族同士でつな

がりをもっていきたい」という意見もあった。今回の研修交流会を受けて、第2回の設立準備会を2/19に予定している。

(西田委員長) 家族会の設置は、どのようなスケジュールでどのような形で設置する予定か説明してほしい。

(事務局) 先ほど平野副委員長から報告があった全国屈指福社会議の資料に、6月に家族会を設立という目標に向かって取り組みをしている。「ひきこもりは当事者だけでなく、家族の悩みでもある。家族のケアと家庭環境の変化で、ひきこもり状態が改善する例もあるため、ひきこもり家族会の組織化を進める」ということで、取り組んでいる。6月の目標に向かって、何回か家族交流会、家族設立準備会を重ねながらと思っている。年度内に方向が決まりましたら、6月に設立総会や記念の講演会等できれば良いかなと思っている。次回には、詳細なご報告ができればと思う。

(西田委員長) 最初の参加人数は、どれぐらいを見込んでいるか。

(事務局) 10名から20名になると良いと思っている。

●居場所の開設について

(事務局) 23ページ参照。

先週、委員の皆さまにご案内しているが、2/23(金)13:00から開設式を予定している。片岡市長、加藤議長、風早会長に開会のあいさつをお願いしている。その後、「居場所の」愛称・目的等について西田委員長から説明いただく予定。その後、来賓の皆様と一緒に看板の除幕式を行う予定にしている。式典後、内覧会を開く予定。

また、「居場所」の愛称については、委員の皆様からたくさんの案をいただき「さんタッチ」、「サン・ステップ」「ミライズ」の3案に絞っている。今後、市長のご意見をいただきながら決定する予定。

(西田委員長) 居場所の愛称については、皆様方のご協力をいただき、社会参加ワーキングの方でもご協力もいただき3つに絞ることができた。この委員会としては、どの愛称が良いか委員・オブザーバー・事務局も挙手で希望を言ってほしい。「さんタッチ」9名、「サン・ステップ」4名「ミライズ」5名。

(平野副委員長)「さんタッチ」で進める。「ワンタッチ」との関連から、この居場所は「さんタッチ」でいく。

(西田委員長) 事務局とも話をしていて、最初がプロジェクト的には「ワンタッチ」、家族会で「ツータッチ」、この居場所が「スリータッチ」になる、「スリー」ってことは「3」なので、太陽と絡めてのような話だったと思う。

(平野副委員長) では、「さんタッチ」押しでいく。

●社会参加ワーキンググループ会議について

(直島委員) 2回社会参加ワーキンググループを開催したが、結論から言うと、社会参加の定義についてまとまりきっていない。24ページ以降、各委員から、「自立」や「社会参加」のイメージについて、意見を出し合い共有している段階。考える上でいつも難しいと話をしているのが、実際関わっているケースが多種多様で、「外出

さえもままならない」人や「外出はできるよ」という人もいる。どこに設定するのか多岐にわたっている。各委員から出た部分では、「働かないといけない」、「何かしないといけない」という追いやるようなイメージをもたれるような定義はやめようという話になっている。本人や家族にとって、何か温かさがあり、前を向くことが出来るメッセージ性のある定義にしたほうが良いのではないかという意見が出ている。極論から言えば、本当にひきこもっている場合は、「ドアが開いただけでも一つ社会参加の一步だよ」という話も出ている。ひきこもりの定義が総社市にはあるので、それとも対応させるような形でという意見もある。

(川上オブザーバー) 我々の立場からすると、就労参加という価値観を押し付けがちになってしまいがちだが、本人からすれば「居場所」、物理的にではなく精神的な所属感を満たされるような場所が、外部に見いだせるような社会参加ではないかと思うので、就労やボランティア以外の表現がないかなと思う。

(西田委員長) 社会参加というものを幅広くとっても良いのかなと思う。色々な形の社会参加があるとイメージがあると良いと思う。あと、学術的な視点から社会参加の定義をしようとなると、正確性はあるが一般的には分かりにくいこともある。どれくらいに答えを出すか目安はどうしますか。

(直島委員) 家族がつながることも一つだろうという意見もあるので、2月も1度開催予定。

(平野副委員長) 統計的に出すのであれば、ここまで到達したものを数字として社会参加として出そうというのは必要だと思うが、一人一人をみるとこの人にとっては、扉が開いただけでも社会参加という場合がある。厳しいけどこういう到達点ということで数字として出す場合はこの数字、しかし、一つ一つの事例をみていくということなのかなと思う。

(直島委員) 包括的に議論していかないといけないと思う。

(西田委員長) 7月にサミットも予定しているので、我々のいう社会参加とはという定義が決まっていればと思う。

■協議事項

●会議録の承認について（平成 29 年 11 月 28 日開催分）

28 ページ参照。

(西田委員長) 特にご意見なかったようなので、ご承認をいただきたい。それでは、(案)をとって承認ということにしたい。

●ひきこもり支援サミットについて

(事務局) 38 ページ参照。名称もこれで良いのだろうかというところから議論いただきたい。目的に「生活困窮者自立支援事業や障がい者施策だけでは担いきれない」この時点では書かせていただいたが、1/18 の「全国厚生労働関係部局長会議」で、ひきこもりについても国も市町村のメニュー事業化していく方向も示されているので、協議していただきたい。実行委員会の組織構成に関して、イメージを提示しているが、本来ならば全国が良いと思うが、集まって議論していただくことを想定

されるのであれば、近隣の自治体や社協に声をかけるのが良いかなと思う。対象者に、生活困窮者自立支援機関というところを入れるべきかも協議していただきたい。日本記念日協会があり、ひきこもり支援記念日の制定もしても良いかなと思う。

(西田委員長) まずは、タイトルは「第1回全国ひきこもり支援サミット in 総社市」になっているが、どう思うか。事務局としてはどうか。

(事務局) 平仮名で「そうじゃ」が良いのではないかというご意見をいただいている。

(西田委員長) 中身を見ると基礎自治体なので、タイトルに入れたほうが良いと思う。

(平野副委員長) 「in そうじゃ」で良いと思う。

(川上オブザーバー) 一般的にひきこもりサミットになると、NPOなどにも声をかけないといけないので、テーマを「全国自治体ひきこもり支援サミット」、「全国小規模自治体ひきこもり支援サミット」にするのか、何かしら中身の意図をいれた名前にした方がよいと思う。

(西田委員長) 市町村レベルでということであれば、基礎自治体が良いと思う。

(林委員) 基礎自治体とあれば、区も入るので豊中区も大丈夫だと思う。自治体ということになれば、県が入ってしまう。

(西田委員長) 総社がひきこもり支援をする時も、住民に身近な基礎自治体ができることが効果的ではないかというところから始まった。では、「全国ひきこもり支援基礎自治体サミット in そうじゃ」ですすていく。目的も小規模自治体ではなく、基礎自治体ということにしていく。「生活困窮者自立支援事業や障がい者施策だけでは担いきれない」の部分は削除すれば良いと思う。目的が短くなるので、「住民生活に一番身近な基礎自治体が適切に支援をしていく」というような趣旨を盛り込めば良いと思う。意見を言ったうえで、事務局に任せるということですすめていく。主催は、実行委員会形式にして、県内の自治体、社協、家族会に委員になってもらうという形でよいか。

(平野副委員長) この自治体は、例えばで入れているのか、近隣の自治体で入れているのか。

(事務局) 近隣という意味で入れている。実行委員会をサミット開催までに開くかどうかということもあると思う。同日に実行委員会を開くのであれば、全国広域にできると思う。実行委員会ということにし、第2回のサミット以降、こういう形がとれたら良いかなと思う。今回、実行委員会でサミットについて議論するのは具体的には難しいかなと思っている。

(西田委員長) 自治体と言っても、ひきこもり支援をしていない自治体を呼んでも全く意味がないので、新見市や高梁市はしているのだろうか。集えないにしても、全国広域に声をかけてメールや文書でも良いのではないかな。初回なので、実行委員会がこのようなサミットを始めて、今後もネットワーク化して次年度以降も継続して開催しようという形の方が自然であると思う。

(事務局) 全自治体に実行委員会を開催するや実行委員会に参加しないかという呼びかけは、厳正には難しいと思うので、全自治体というイメージではなく、こちらで補足しているような自治体に声掛けをさせていただいたり、インターネットの中で告知をしたりなどの手立てをとらせていただき、実行委員会に参加を募らせ

ていただき、賛同いただける方のみで組織化結成するということにさせていただきたい。

(西田委員長) 総社です時の実行委員会と考えれば、地域性を重視の方が良いのかとも思う。県内の自治体で形は違えど、何らかのひきこもり支援の取り組みをしている自治体、県、県社協、家族会で作るのも良いかもしれない。

(平野副委員長) サミットに声をかける予定の参加者にある自治体は全国的に表にでている自治体なのか。

(事務局) いくらか取組がある自治体や、総社に視察にきてこれからひきこもり支援の取り組みをしようと考えている自治体を並べている。総社のようにひきこもり支援をしているという情報はない。

(西田委員長) 井原市は、自治体ではなく、井原市社協が窓口にあるのか。

(事務局) 財源が、共同募金財源でしていると聞いている。

(吉田オブザーバー) 思いやりネットワークという社会福祉法人や民間の事業所が集まったゆるやかな会があり、そこで制度の狭間についての勉強会から始まっている。

(西田委員長) 実行員会もあまり船頭が多いと、前に進まないこともあるので。

(平野副委員長) 今の世の中なので、県外の基礎自治体にも入ってもらって、メールや文書でやりとりをして参加してもらってもよいのではないかな。

(新谷委員) 地域性を出すという意味で、県内が良いかなと思う。将来的にこのネットワークを広げたいという思いがある中で、実行委員会に参加自治体を含めていくと実行委員会がどんどん膨らむので心配がある。それを考えると、県内に絞った方が良いと思う。

(事務局) ひきこもり支援全国ネットワークを設立していこうと今回大きな動きを作っていこうとしている。次年度、別の市町村で開催していただくことになれば、この実行委員会にこのネットワークが入れ替わっていくというイメージになるのか、いやいや実行委員会も残しながら、ネットワークと両主催という形にしていくのか関わってくるのかなと思う。最初のうただけに方向性をということになるが、先ほど委員長が言われた実行委員会は周辺部で組織するが、次年度以降は全国ネットワークも一つ団体としてできてくると思う。

(平野副委員長) 私も、全国発信をずっと総社のひきこもり支援センターが事務局をすることになりかねない場合は、ケース対応も増える中、心配である。

(西田委員長) イベントごとで実行委員会形式をとるのは、その場、単発イベント限りという形なので、継続的なネットワークの参加者は、母体にしなくても総社の単発の実行委員会だということ違和感はない。仮にネットワークが組織化できたとして、回し方は別の話になるので、幹事は持ち回りでなどのルール化していけば良いと思う。

(平野副委員長) 県内でひきこもり支援を熱心に行っているところがあれば、そことタッグを組んですれば良いと思う。

(事務局) 提案しときながらなんですけど、主催の中に実行委員会を消したらどうだろうか。

(新谷委員) 実行委員会を活かすのであれば、逆に下の3者を消した方が良いのではないか。

(川上オブザーバー) 実行委員会の中に、ひきこもり支援等検討委員会、総社市、総社市社協が入れば良いと思う。

(西田委員長) 自治体については、岡山県は参加、近隣の市町村は、興味があればご参画いただけますかと流して、音沙汰なかったらそのままいくのはどうか。後援は他に何か入れたらどうかというところはあるか。

(林委員) 岡山県教委はどうだろうか。

(西田委員長) 県教委も入れて、他に何かお気づきの点があれば事務局に報告とする。定員が1000名ということで、どのくらい集まるだろうか。最低600名集客したい。対象者は、ひきこもり支援に取り組む基礎自治体、社協についてはどうだろうか。

(吉田オブザーバー) 市区町村社協にしてはどうか。600名すぐ埋まるような気がする。今、社協職員も困窮の委託などを受けていることが多いので、全国に声をかけたら結構くると思う。市区町村を優先してあげてほしい。

(西田委員長) 社協の書き方については、県社協と総社市社協とで相談して決めてもらう。

(事務局) 生活困窮者自立支援事業を受託している機関をいれたらどうかと思う。

(吉田オブザーバー) 生活困窮者自立支援ネットワーク会議を各地で開催されているが、やはりひきこもり支援は必ず出てくる話題である。自立相談支援機関ということで名称を入れておいてあげると、業務として参加しやすいと思う。

(西田委員長) 参加しやすい形で対象者を書いて欲しい。

(事務局) 教育委員会の関係の機関が分からなかったため書いていないが、教えていただきたい。

(北川委員) 適応指導室の先生たちが、子どもたちの将来について切実な問題意識を抱えていると思う。学校は進路先を決めてどこかへ送り出すということが最優先。次から次へ子どもたちが入学するので、どうなっているのかと思う。

(平野副委員長) そういった教育関係者が、次の受け皿があるのだと知る意味でも、出張扱いで出やすいようにしてあげたい。

(事務局) その関連で、どこかに「不登校」という文字が入った方がよいのかと思った。例えば、不登校・ひきこもり支援に関心がある方などにしたらどうだろうか。

(西田委員長) 目的の冒頭に、「不登校」の文字を入れてはどうか。対象者にも「教育関係者」と入れてはどうか。

(三上委員) それだと適応指導教室も参加しやすいと思う。

(西田委員長) 次に参加費の件について協議したい。

(新谷委員) 市費で予算をとっているのだから、会費を徴収するとなると考えるところもある。しかし、無料となったらどうかとも思うので、資料代として実費弁償ならば許せるかなと思う。

(平野副委員長) 記念日は、ここに参加した自治体に声かけて、作りませんかと聞いてはどうか。

(西田委員長) ネットワーク参加自治体に、声をかけてみんなで1万円ずつ出資してもらうのはどうか。ひとまず記念日の10万円の話しは置いておく。そうすると参加費はどうするか。

(林委員) 現実的に、予算を自治体で作成している段階なので、サミットの案内が行く頃には予算が出来上がっていると思う。参加費が高いと参加できない可能性がある。

(西田委員長) 参加費は500円ということで行く。

(事務局) 当事者・家族はどうしたらよいか。

(平野副委員長) 受付で当事者や家族が申し出ることができない場合もある。そのことを考えると、一律資料代で500円にして良いと思う。

(事務局) 次回以降の運営のために、費用を考えているので、任意で設定してもらって、運営費カンパくださいと置いても良いのかと思う。

(平野副委員長) カンパ募るのであれば、目的を明確にする必要がある。

(西田委員長) 開催要項の最終確定は、3月に協議するので、参加費については、利益をあげる趣旨ではないという前提に、事務局で案を練り直してほしい。プログラムについて議論する時間がないので、お気づきの点があれば、事務局へ連絡をしていただきたい。その内容を踏まえて、3月の委員会で確定していく。

(川上オブザーバー) ネットワークの名称も、ひきこもり支援基礎自治体ネットワークにした方が良いと思う。

(西田委員長) 年会費に関しては、消去しておいてほしい。

●ひきこもりサポーター養成テキストの作成について

(事務局) 40~42 ページ参照。入門編をサミットまでに完成させるとあれば、原稿を4月末までにいただき、2校までで6月中旬までに校了して、印刷製本したい。発行部数、出版社、販売価格と詰めていきたい。支援者養成ワーキングの中から、プロジェクトチームを編成し、学識のメンバーを中心に議論をいただきたいとお願いしている。ボリュームとしては、認知症のキャラバンメイトのテキストぐらいを考えている。また、周防リーダー中心に項目について調整していきたい。また、途中経過を次回に提示したいと思う。

(西田委員長) すこし進捗がスローペースなので、サミットまでに間に合うかどうか心配である。基礎編、応用編も見てください、この内容は入門編に入れたら良いのではないかと、この項目は必要なのかなどもあればアドバイスいただきたい。なぜ、行政がひきこもりの問題に取り組まないといけないのかなど、根拠的な部分、住民福祉だけでなく生活困窮の中にも明確に位置づけられていてというような背景が必要なのではないか。福祉関係者の取り組みというレベルではなく、公的な問題としてとらえていく必要を入門編で出すべきだと思う。基礎編にも応用編にもない。今回は、持ち帰っていただき、1週間以内に事務局へ報告いただきたいと思う。執筆者と細かいスケジュールを文書にしてメール添付で送り、了承を得るようにしてほしい。

●その他

(事務局) 資料を、43 ページ以降から厚労省の資料、47 ページ以降に新聞の切り抜きを添付している。また、岡山県社会福祉士会の子ども家庭福祉委員会の中で「おおきなあれ」というひきこもりや不登校の団体として、「ワンタッチ」が取材を受けているので、関心がある方がおられたら配布したいと思う。

次回の第 6 回の開催日程は、3/15 (木) 10:00 からを予定している。

■閉会：あいさつ

(平野副委員長) 一人でも社会参加できる道が広がれば良いと思う。